

福岡県労連

KEN & ROREN

2017
10月号
No.132

発行所 福岡県労働組合総連合
〒812-0016 福岡市博多区博多駅南
1-9-8 ケイ・アイビル 2F
☎092-433-1833 FAX092-433-1822

編集発行
福岡県労働組合総連合
福岡県労連



〔定価〕
1部10円

ホームページ 単産・単組の専用ページパスワード: kurashitofukushi (11/1 ~ 30)

動き出す労働法制改悪

アベ「働き方改革」阻止を

政府は、「働き方改革」で残業時間を規制すると言いつつ、過労死ラインの月100時間を上限にしたり、規制を適用除外にする法案が秋の国会では焦点になります。8時間働いたら帰る・暮らせる、長時間・過密労働の是正と全国一律の最低賃金制度の実現は重要な課題です。

一定の職種・年収で残業代ゼロ!?

3月28日にまとめた「働き方改革実行計画」は同一労働同一賃金の推進や長時間労働対策として時間外労働の上限規制を取り入れるという側面はあるものの、その上限は過重労働防止を目的とするものとしては不十分なものです。また、高度プロフェッショナル制度等は「残業代ゼロ法

労働者の視点欠いた政策

政府が進める「働き方改革」の本質は、実行計画をとりまとめた「働き方改革実現会議」の構成メンバーから読み取れます。総理をはじめ関係閣僚のほか、「民間議員」で構成されていますが、働くルールを検討するにもかかわらず、労働者代表が1名でのみで極端に少なく、むしろ経営者や新自由主義の学

労働者目線の働き方改革を求めて

「働き方改革関連法案」は順次国会に提出される予定ですが、一括法案であることも注視が必要です。趣旨が異なる法案をまとめて議論、採決しようとするのは、それぞれの課題について丁寧な議論を阻害します。労働者目線の真の「働き方改革」を求め、広範な労働者が連帯してたたかう必要がこれまで以上に必要です。

※省令とは
各省大臣がその行政事務について、法律や政令を施行するため、または法律や政令の委任に基づいて発する命令。



青年らしさを企画に活かして拡大

全労連青年部 第30回 定期大会

9月23日、24日の二日間、東京都で第30回全労連青年部定期大会が開催され全国から50人を超える仲間が集い、福岡県労連青年部もその一員として議論に参加しました。

大会では各地の青年部の意欲的な取り組みが報告されました。ワールドカフェ形式の学習会、「平和をおしやれに身につける」をテーマにしたアクセサリーの作成、また四国地域では青年部員で十八箇所参りに取り組むなど、どれも堅くなりすぎない「青年らし

さ」や「地域の特色」を活かした企画で、青年が集いやすく楽しみながら学べることを意識していることが伝わります。総括では青年の目を引くキャッチーなフレーズやチャリでの宣伝、訪問活動など丁寧な参加集約が企画の成功につながっていることにも言及がありました。

他地域の青年の取り組みを参考に、福岡県労連青年部でもできることから始めます。青年の皆さん、一緒に福岡を盛り上げましょう。(全印総連 藤岡元気)

各地で取り組まれる署名行動



「平和の波」で核廃絶へ



国連で核兵器禁止条約の調印式が行われた9月20日から26日まで「平和の波」行動が、全世界で取り組まれ、福岡県内各地でも職場や地域で様々な行動が取り組みました。JR小倉駅デッキ前(9/24)では32人の参加で115筆、JR博多駅前(9/26)では12団体23人の参加で116筆の国際署名が英語、中国語、韓国語の署名も集まりました。県内自治体首長の署名も60自治体中28自治体の首長が行っています。ノーベル平和賞をICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)が受賞しました。さらに頑張りあいたいものです。



『おにぎり食いたい』から10年の記念集会

北九州市の生活保護はどうなったのか



報告では、高木健康弁護士が報告し、2005年から連続した死亡事件を検証する「北九州市生活保護行政検証委員会」が、小倉北区の餓死した男性の残っていた日記と市民世論の大きさから3件目の事件を検証の対象にし、厚生労働省も「北九州市の生活保護行政は間違っている」と述べました。そして、あれから10年たっ



生活保護行政の現状報告

9月30日北九州市小倉北区の男女共同参画センター・ムーブ多目的室で、「生活保護支援九州・沖縄ネットワーク10周年記念集会」（県司法書士会・県弁護士会後援）が開催され、会場からあふれんばかりの市民が参加しました。これは、10年前に「おにぎり食いたい」と日記を残して餓死をした事件から10年を節目に集会が開催されたものです。

雨宮可凜さんと尾藤弁護士との記念対談

尾藤弁護士の記念対談

その後、記念対談が行われ、作家の雨宮可凜さんと厚労省官僚から弁護士に転身した尾藤弁護士が「あれから日本の生活保護はよくなったか」と題した対談が行われました。

尾藤弁護士は、「厚労省は北九州市に『生活保護行政の全国モデル』として天下り職員を30年に渡りチームで派遣し、数値目標による管理や扶養の強制、厳しい就労指導、母子家庭やホームレスの保護申請の排除・水際作戦等を厚労省として率先してやってきた。そして事件が起きて『北九州市は間違っている』と梯子を外した」と述べました。

雨宮さんは、「この11年、5年周期で事件が起きている。07年の北九州市のおにぎり、12年の札幌、17年の女子高生バッシング。貧困を言うバッシングする風潮がある。生活保護と公務員バッシングが交互に行われている。新自由主義との戦いの30年だったが、当事者が声を上げ始め

家族と共に人間らしく働く 人間が壊れるとなかなか元に戻らない

北九州労健連サマースクール&第3期ROUAN塾終了式

働き方をリートーク

参加組織の建設業・医療・学校・公務の職場から働き方の問題点が出されました。

一人親方化される建設業の実態、サービス残業が恒常化している医療現場、教職員のブラック部活の実態などが、リアルに報告されました。

自分の生活時間を取り戻す

井下弁護士は、安倍内閣がすすめる「働き

雨宮さんは「マスクミが生活保護受給者のイメージを作っている。カップ酒、パチンコとその映像が市民に刷り込まれている。辛

くても生活保護を申請しない人がバッシングに向かう」と述べ、尾藤弁護士は「生活保護だけでなく年金、最低賃金の引き上げ、雇用

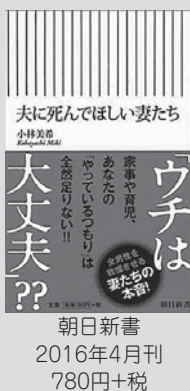
制度などを充実させていくことが大切。我慢比べ、貧困比べになっ

この本
おすすめ

小林美希著

「夫に死んでほしい妻たち」

家事・育児で、妻が「してほしいこと」と夫が「しているつもり」の間には大きな差がある。そうした不満や怒りは、妻の心の中に澱（おり）のように溜まっていき、「死ねばいいの……」。出産でキャリアを中断された女性が離婚して生きていくには、今の世の中リスクが大きい。経済的理由で離婚を躊躇する妻は、住宅ローンがなくなり、遺族年金や生命保険が入ってくる「夫の死」を切望する。その背景にあるジェンダー問題、



長時間労働、非正規労働、同一賃金などについても考えさせられる一冊。「殺される」ことはないまでも、「死ねばいいの……」と思われ

(いつ) ひでき)

生活保護基準切り下げ、年金切り下げ違憲訴訟を支援する福岡の会

「いかなん貧困・福岡の会」

第3回

総会 お誘い

11月12日(日)
13時30分から

第3博多偕成ビル
大会議室

連絡先:いかなん貧困・福岡の会
☎ 092-414-1407

第28回

人間らしく働くための九州セミナー

in くまもと

家族的責任を自分らしく果たす権利と健康

2017年
11月25日(土)・26日(日)

記念講演 講師 斎藤 周氏
(群馬大学教育学部教授)

方改革」の詐欺的な中身、今年1月に出された「未来投資戦略2017」が掲げる「働き方改革」は「生産性の向上と新しい価値総出力の強化」企業が世界で一番活動しやすい国へとしており、労働者の権利を奪うものです。長時間労働規制100時間は、結局過労死(推進)基準であり、非正規雇用対策の「同一労働同一賃金」は絵に描いた餅です。

家族の責任を果たす働き方、家族と共に過ごす働き方「日曜日のパパは僕のもの」にあるように、世界的にも異常な日本の長時間労働、国際通用語となった「カローシ」人が壊れると(うつ病など)なかなか元に戻らない。「生活時間が奪われている。自分たちの生活時間を取り戻す」社会を変える大きな運動の必要性を訴えました。

7月29日(土)北九州労健連サマースクールが55人の参加で行われました。毎年行われているサマースクールは、最初に、今年行った3期ROUAN塾生に、終了証を渡す終了式を行いました。